

第11回 学生政策提案フォーラム in さいたま

誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と
思えるさいたま市の実現



日時 令和4年11月20日 [日] 14:00~18:00

場所 生涯学習総合センター多目的ホール（シーノ大宮センタープラザ10階）

主催 大学コンソーシアムさいたま※、さいたま市

※加盟大学：埼玉大学／埼玉県立大学／浦和大学／慶應義塾大学薬学部／
芝浦工業大学／聖学院大学／日本赤十字看護大学さいたま看護学部／
日本大学法学部／日本薬科大学／人間総合科学大学／
放送大学埼玉学習センター／目白大学／国際学院埼玉短期大学

<はじめに>

「大学コンソーシアムさいたま」は、さいたま市内及び近隣13大学の間で、各大学が持つ多彩な魅力や豊富なシーズを相互に活用して共に高めるとともに、連携して活力ある地域社会の形成と発展に寄与することを目的として設立された組織です。

さいたま市と「大学コンソーシアムさいたま」では、加盟大学の学生が、さいたま市の政策について企画検討・提案することにより、地域社会への愛着と関心を深め、ひいてはさいたま市の発展に寄与することを目的に、「学生政策提案フォーラム in さいたま」を開催しています。

<目次>

○ 開催概要	1
○ 発表グループ	3
○ 政策提案の紹介	
1 林紀行ゼミナール（日本大学）	5
2 造形デザインゼミ（国際学院埼玉短期大学）	7
3 久保田ゼミ（埼玉県立大学）	9
4 UHASdining（人間総合科学大学）	11
5 環境基盤研究室（芝浦工業大学）	13
6 芝浦 HADO チーム（芝浦工業大学）	15
7 鈴木ゼミ（国際学院埼玉短期大学）	17
8 川俣ゼミ（埼玉県立大学）	19
9 斎藤ゼミ（埼玉大学）	21
10 福島ゼミナール（日本大学）	23
11 チーム uhas（人間総合科学大学）	25
○ 歴代受賞グループ一覧	27
○ 「大学コンソーシアムさいたま」とさいたま市との連携について	30
※ 文中敬称略	

第 11 回学生政策提案フォーラム in さいたま開催概要

1 開催の趣旨

「大学コンソーシアムさいたま」加盟大学の学生が、さいたま市の政策について企画検討することにより、地域社会への愛着と関心を深め、もって、さいたま市の発展に寄与することを目的として開催する。

2 主催

大学コンソーシアムさいたま（加盟大学：埼玉大学、埼玉県立大学、浦和大学、芝浦工業大学、聖学院大学、日本赤十字看護大学、日本大学、日本薬科大学、人間総合科学大学、放送大学、目白大学、国際学院埼玉短期大学、慶應義塾大学）、
さいたま市

3 開催日時・場所

(1) 日時

令和4年11月20日（日） 14時00分から18時00分まで

(2) 場所

生涯学習総合センター 多目的ホール

（さいたま市大宮区桜木町1-10-18 シーノ大宮センタープラザ10階）

4 テーマ

誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と思えるさいたま市の実現

5 審査及び表彰

(1) 審査

審査委員による審査の結果、合計得点が最も高いグループを最優秀賞とし、次点から3グループを優秀賞とする。同点の場合は、審査委員長が順位を決定する。

(2) 表彰

最優秀賞及び優秀賞のグループに対し表彰を行う。

「第 11 回学生政策提案フォーラム in さいたま」 審査委員

	団体名等	氏名	備考
1	事業構想大学院大学 事業構想研究所 教授	河村 昌美	審査委員長
2	尚美学園大学 芸術情報学部 音楽応用学科ビジネスコース 教授	井上 昌美	
3	森永乳業株式会社 首都圏支社 埼玉支店 支店長	加納 隆太	
4	さいたま市都市戦略本部 行財政改革推進部 部長	門馬 邦彦	
5	さいたま市都市戦略本部 都市経営戦略部 参事(企画・SDGs推進担当)	大砂 武博	

第11回学生政策提案フォーラムinさいたま 発表グループ一覧

(発表順)

大学名	グループ名	発表テーマ
日本大学	林紀行ゼミナール	子どもの意見を取り入れた持続可能な公園の実現
国際学院埼玉短期大学	造形デザインゼミ	さいたまにじいるWEBの提案
埼玉県立大学	久保田ゼミ	さいたまハンバーグを用いたさいたま市の活性化
人間総合科学大学	UHAS dining	子どもの未来を繋ぐ ～あったかサポート～
芝浦工業大学	環境基盤研究室	高温化する夏季においても 安全に安心して歩けるまちの実現
芝浦工業大学	芝浦 HADOチーム	ARスポーツで高齢者の新しいスポーツ文化を創ろう！
国際学院埼玉短期大学	鈴木ゼミ	健康寿命延伸のために、美味しく食べよう ～フレイル・サルコペニア予防のために 今から取り組むべきこと～
埼玉県立大学	川俣ゼミ	教育現場への作業療法士の参加
埼玉大学	斎藤ゼミ	さいたま市における熱中症患者減少をめざして
日本大学	福島ゼミナール	さいたま市×ブックマーク ～さいたまマーク～ 葉でつくる・つながる・まちへの愛着
人間総合科学大学	チームuhas	居酒屋×食育 ～お通しから見直そう～

タイムスケジュール

時間	内容
14:00	○開会
14:10	○政策提案の発表
14:10	1 林紀行ゼミナール（日本大学）
14:25	2 造形デザインゼミ（国際学院埼玉短期大学）
14:40	3 久保田ゼミ（埼玉県立大学）
14:55	4 UHAS dining（人間総合科学大学）
15:10	5 環境基盤研究室（芝浦工業大学）
15:25	休憩（15分）
15:40	6 芝浦HADOチーム（芝浦工業大学）
15:55	7 鈴木ゼミ（国際学院埼玉短期大学）
16:10	8 川俣ゼミ（埼玉県立大学）
16:25	9 斎藤ゼミ（埼玉大学）
16:40	10 福島ゼミナール（日本大学）
16:55	11 チームuhas（人間総合科学大学）
17:10	休憩（15分）
17:25	○審査結果の発表・表彰
17:37	○審査委員長による審査結果の講評
17:42	○主催者挨拶
17:45	○閉会
17:47	○記念撮影

※ 当日の都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

グループ紹介

大学名	日本大学 法学部
グループ名	林紀行ゼミナール
発表テーマ	子供の意見を取り入れた持続可能な公園の実現
指導教員	林 紀行
参加学生数	4名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

一番のアピールポイントは、現地調査を行ったことです。具体的には、さいたま市南区の神明丸公園、白幡公園、別所沼公園、川崎市の子ども夢パーク、そしてPark-PFIに関する公民連携セミナーへ参加しました。現地調査を通して、私たちが実際に見たもの、感じたことを大切に、準備をしてきました。特に、神明丸公園と白幡公園については、ボール遊びが禁止されており、公園周辺のフェンスが低いことから、子どものボール遊びによって近隣トラブルに発展したことが伺えました。しかし、広いグラウンドがあるにも関わらず、遊び方が制限されてしまうことは非常にもったいないことであると感じています。それと同時に、この制限に際して、利用する子どもたちの意見が取り入れられていないのではないかと考えました。

子どもの権利条約や子ども基本法成立など、子どもを権利の主体として認めようとする動きがある中で、子どもの意見を取り入れることはとても重要なことです。実際に、私たちは子どもの思いっきり遊びたいという気持ちを大切にしており、これを実現するには、子どもの自発的な意見が必要不可欠であると考えています。このような子どもの意見を取り入れることについての事例を作るため、先駆けとして（仮称）埼玉県立総合教育センター跡地公園における、「遊びと憩いの広場」を子どもの意見を取り入れながら作り上げることを提言するに至りました。この事例を通して、大人のみならず、子どもも含め、誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と思えるさいたま市の実現に期待したいです。

反省点については、さいたま市の公園調査が南区でしか行えなかったことです。それぞれの区や遊具撤去が行われた公園へ実際に調査することができれば、より説得力のある提言に繋がったのではないかと考えています。また、こういった調査は非常に時間がかかることを、身をもって体感しました。今後のゼミナールでの活動で、今回の反省点を活かしていきたいです。

政策提案概要書

① テーマの設定について

さいたま市の政策に「子どもの意見」が取り入れられていないことに着目した。子どもの権利について、1989年に子どもの権利条約が採択され、日本は1994年に国会で批准した。そして、子どもを権利の主体として認めようとする「子ども基本法」が2022年に国会で成立し、2023年4月から施行される。特に、子どもの権利条約第12条、第31条には子どもが自己の意見を表明することや遊ぶことが権利であることを示しており、子ども基本法第5条、第11条では国や地方公共団体が子どもの状況に応じた施策を策定し、必要な措置を講ずることを求めている。更に、子どもの権利を擁護することはSDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」ことにも適合する。

これら社会的背景を踏まえて、子どもの公園で思いっきり遊びたいという気持ちを尊重し、「子どもの意見を取り入れた持続可能な公園の実現」をテーマに設定した。

② さいたま市の現状・課題分析

さいたま市ではハザード除去の観点から、公園遊具を市内全体の約20%を使用中止とし、撤去や修繕、再設置等を行っている。しかし、撤去のみの措置が取られることもあるため、遊具の総数は減少してしまった。撤去の際に、子どもの意見が取り入れられておらず、子どもの遊ぶ機会、遊ぶ権利を一方向的に妨げる要因となっている。

次に、具体的な公園の例として、さいたま市南区にある「神明丸公園」と「白幡公園」を示していく（現地調査済）。これらは近隣トラブル等によってボール遊びが制限された公園である。もちろん、子どもが一方向的に悪い場合も想定されるが、子どもの話を聞かずに、「ボール遊び禁止」の看板を公園の入り口やグラウンド中央に設置することは、子どもの遊ぶ機会、遊ぶ権利を妨げる要因となる。

③ 提言内容

これらを踏まえて、(仮称)埼玉県立総合教育センター跡地公園における、「遊びと憩いの広場」を子どもの意見を取り入れながら作り上げることを、子どもの意見を政策に取り入れる先駆けの取り組みとして提言する。これを実現するために、さいたま市が小学校の先生に対して説明をし、小学校ごとで事業に関する意見交換会を開き、子どもたちから意見を募ること。子どもに関するノウハウを持つ事業者を選定し、管理運営を任せることが有効である。

この取り組みを通して、子どもの権利を擁護し、SDGsに貢献できること、事業が公民連携で行われるため、多くの主体が子どもの権利について考えるきっかけとなること、子育て世代の定住促進やシビックプライドの向上などの良い影響をもたらすこと等が期待できる。

このように、公園事業を先駆けとして、子どもの意見を政策に反映させた事例を作ることで、大人のみならず、子どもも含め、誰もが「住みやすい」「住み続けたい」と思えるさいたま市の実現に貢献できる。

グループ紹介

大学名	国際学院埼玉短期大学
グループ名	造形デザインゼミ
発表テーマ	さいたまにじいろ WEB の提案
指導教員	大野 琴絵
参加学生数	9名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

【アピールポイント】

今回私たちが提案した政策の効果としては、

- ・LGBTQ 当事者や、関係者たちの抱える困難を解消
- ・多様な性を持つ人々が差別や偏見を受けずに暮らすことのできる社会の実現
- ・性自認等によるいじめや差別の撲滅
- ・当事者以外の知識を得る、多様性との共存
- ・アライ (ALLY) の周知、獲得

が出来ると考え、この度提案させていただきました。

SDGs の「誰一人取り残さない」の理念を尊重し、私たちはこれからも活動していきます。

【反省点】

当初政策提案を行うにあたり、「彩さいマーク」を当事者に配布し、サービスを平等に受けられるようにするという提案を行おうと致しましたが、「性的少数者の優遇という差別の問題が生じる恐れがあるのでは」というご指摘を頂きました。「優遇という差別」といった配慮まで至らなかったことが反省点です。その反省点を生かし提案を修正致しました。

【所感】

幼児期の子どももあらゆる他者を価値のある存在として尊重することが大切であり、保育者を通して LGBTQ の理解を深めていくことが重要であると気づかされました。また、それ以前に幼児期に関わる保育者は LGBTQ の知識の習得や理解、その対応についての学びを深める必要があります。ゼミナールを通して今回 LGBTQ について学ぶことが出来ましたが、これらの重要な課題は、保育者を目指す者全員が学んでいく必要があると強く感じました。

政策提案概要書

私達国際学院埼玉短期大学造形デザインゼミでは、SDGs 目標「5.ジェンダー平等を実現しよう」を掲げています。今回私たちは、SDGs の「誰一人取り残さない」という誓いと、今回のフォーラムのテーマの「誰もが」に着目し、性的少数派の方々がよりよく過ごせるツールを提案することと致しました。

政策提案骨子は、人権を尊重する社会づくりの推進・性自認に対する知識や対応の習得・平等・対等なサービスの提案・誰もが自分らしく生きられる D&I 社会づくりを目指す等です。

現在、様々な取り組みが行われている LGBTQ ですが、保育現場や教育機関でも重要な課題であると言えます。男女の性差の違いを意識するのは2歳頃からであり、子どもは4歳頃になると自分は男だ、女だと自覚し始めます。LGBTQ の人が性別の違和感を自覚する時期は約 57%が小学校入学以前といわれているのです。しかし、保育現場では、今もなお、無意識的な性差別が行われているのが実情です。実習等を通して実際にあった例が、「くん」「ちゃん」呼び「男女分かれての整列」「女の子（男の子）らしくしなさい」などといったジェンダーバイアスが存在していました。そのような昔ながらの保育の背景があったにせよ、幼少期から「男らしさ」「女らしさ」という文化的なジェンダーバイアスを押し付けないようにしていかななくてはならないと思います。

そこで私たちが考えたのが、「さいたまにじいろ WEB」です。基本的には「さいたま子育て WEB」と同様の運用方法ですが、NEWS とお知らせを TOP ページに設けたいと考えます。「NEWS」には、LGBTQ に関する様々な最新ニュースを、「お知らせ」は市からのお知らせを一目でわかるようなデザインにしました。「学びたい」のページは周囲に LGBTQ の方々がいる方や、学校などの教育機関者、保育者等、様々な人たちが LGBTQ について学べるページとなっています。法案や条例を確認できるように「学びたい」ページの TOP に設け、国や県、市や団体がどのような取り組みを行っているのか、一目でわかり、様々な場面で活用できる仕様にします。研修内容は LGBTQ の基礎知識はじめ、対応の仕方や、チェックリスト等幅広い知識を集約し、更に、関連動画も視聴することが出来る環境を整えることで、様々なケースに対応できる仕様となります。

これらが、私たちが提案するさいたまにじいろ WEB ですが、メリットとして「当事者が気軽に相談、交流をすることができる・当事者以外が LGBTQ について学びを深めることができる・差別のない社会実現の一步となる・LGBT に関するコンテンツが一つのプラットフォームに集約され、効率的で分かりやすく便利・迅速な情報更新が可能・LGBT に関する問題の PR 効果が期待できる」が挙げられます。私たち自身「こんなサイトがあったらいいな」と思い、考案したため、自信をもって提案させていただきたいです。しかし、デメリットも存在し、「知られていないと活用されない・常に最新情報の更新をする必要がある・WEB サイトの管理や窓口等の人員の確保が必要となる・IT 弱者は利用しづらい」といった懸念もあります。また、起こりえる課題と対策については、掲示板を設ける際は、誹謗中傷や犯罪の懸念があるため、秩序を保つには、一定のルールを設け、日々対処する必要があることが挙げられます。これらのデメリット等を解決することが出来れば、必ずためになるサイトになるのではないかと確信しています。

グループ紹介

大学名	埼玉県立大学
グループ名	久保田ゼミ
発表テーマ	ハンバーグを用いたさいたま市の活性化
指導教員	久保田 富夫
参加学生数	5名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

私たちは、ハンバーグを用いてさいたま市を「子供から高齢者まで一人一人が輝ける街」にすることを目的として、政策を検討しました。実際に現行の「こども食堂」や「配食サービス」の利点を活かしつつ、私たちが考える[より良い街、住み続けたいと思う街]にするためにはどのようなサービスが必要か、実現への障壁等を検討しました。

現実性の部分でまだまだ検討が不十分な点も多くあると存じますが、市民全てが日々に充実感を感じて、さいたま市で「長く暮らしたい」と思えるような政策といたしました。

医療福祉を学ぶ私たちが考える市民一人一人に寄り添える政策となっておりますので、今後市政に何か活かしていただけるようなことがあれば幸いに存じます。

政策提案概要書

「他者との繋がり」と「健康」の観点から、ハンバーグを用いた政策を提案する。現在のさいたま市は、社会のつながりが弱い単独世帯の増加や、少子高齢化の影響によって地域社会の機能低下や現役世代の人手不足が問題とされている。私たちは、そんな問題点に着目した政策を提案した。

目的：

現在多くある「子ども食堂」や、「配食サービス」の良い点を活かした新たなサービスの提供によって、世代間交流や地域の繋がり強化に加え健康増進で、さいたま市を「より良い、住み続けたいまち」にする。

具体的な政策：

「つながり食堂の開催」、「ハンバーグキットの提供サービス」を提案する。

つながり食堂：

子ども食堂へ高齢者の参加を促すものであり世代間の交流の場としての提供や、高齢者に地域での役割を与えることを目的としている。

ハンバーグキットの提供サービス：

外出が難しい高齢者に対する配食支援であり、自宅で手軽に料理をしてもらうこと、世代間の交流のきっかけを作ることを目的としている。

これらの政策を医療福祉を学ぶ学生の観点より満足度の高い形で実現できるかつSDGsを意識した政策として提案することとする。

グループ紹介

大学名	人間総合科学大学
グループ名	UHAS Dining
発表テーマ	子どもの未来を繋ぐ ～あったかサポート～
指導教員	梅國 智子
参加学生数	14名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

私たちは「子ども食堂」の運営の支援を政策内容として掲げることとした。まずは、さいたま市の「子ども食堂」の現状の把握をし、そこから考えられることや見えてきた課題を抽出した。その中で私たちが可能である支援方法について模索した結果を提案する。また、本政策は学生のみで構築されるだけでなく、実際にさいたま市にある子ども食堂や SAINOKUNI MARCHE 等とのコンタクト及び連携をさせていただいた上での政策として、確立を目指している。

政策提案概要書

さいたま市の現状

さいたま市の人口動態係数において、年々出生数が減少しており、令和2年では約1万人にまで減少している。その背景がありながら、子ども食堂数は全国的に増加し、2021年には6007軒、利用者数は2019年時点で160万人に及ぶ。これらのことから、子どもが少なくなってきたからこそ大切にするとともに、コミュニケーションの場を作るという意味も込めて子ども食堂の需要が高まっている。

現状からの課題

子ども食堂の需要が高まってきている中、様々な課題が見出されている。実際に子ども食堂を運営する方々に調査したところ、資金不足、人手不足、食材不足の3点に加え、献立作成が大変であることが分かった。これは、子ども食堂の認知度が低いことも原因の一つと考え、これらの解決のために、子ども食堂の認知度の向上などの解決が必要であることが伺えた。

政策内容

【1】 大学コンソーシアムさいたま加盟大学でインカレサークル設立

大学コンソーシアムさいたま加盟大学は現在13校あり、連携してインカレサークルを設立する。サークルの活動内容は、①子ども食堂への派遣により人手不足の解消②遊休農地を活用した農業を実施し、野菜を育て寄付することで食材不足の解消③募金活動を実施し、運営資金不足の解消④食に関わる学科のメンバー中心に献立作成を支援する。など、サークルメンバーの内容に分かれて活動を進める。

【2】 知名度向上のため、外部イベントに参加

子ども食堂の知名度の向上のために、インカレサークルが中心となり、SAINOKUNI MARCHE への出展と市内産業産物プチマルシェを利用し情報伝達や募金活動を行う。

① SAINOKUNI MARCHE への出店

子ども向けイベント開催時には子ども連れの家族が多く参加するため、子どもやその保護者に、子ども食堂を知っていただく機会が得られると考えている。子ども食堂についての展示パネルや、餅つき体験などの参加型イベント、可能であれば、子ども食堂でよく提供される食事などの販売を実施する。

② 市内産農産物プチマルシェの利用

市内産農産物プチマルシェは農家の方による販売だけでなく、農家の方同士の情報共有の場となっている。そのため、その場を利用して子ども食堂のポスター掲示による宣伝を行う。これにより、農家の方からの規格外野菜の提供や売れ残り食材の情報などを直接頂ける機会にもつながるのではないかと考えている。

提案による効果

インカレサークルを設立し、各メンバーの得意とする分野に分かれてボランティア活動を行うことで、人手不足が解消され、献立作成支援、野菜などの食材の寄付など子ども食堂に貢献できると思われる。さらに、外部イベントなどの参加により、子ども食堂の認知度を向上することが可能となり、募金活動などの実施により運営資金の負担を減らすことにつながるのではないかとと思われる。

グループ紹介

大学名	芝浦工業大学
グループ名	環境基盤研究室
発表テーマ	高温化する夏季においても安全に、安心して歩けるまちの実現
指導教員	増田 幸宏
参加学生数	10名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

提案のアピールポイント

命の危険が迫るような暑い日においても、クールルートを創出、またクールスポットを設置することで、熱中症リスクを軽減させ、人々が安心・安全にまちを歩くことが出来るようになる。また、この取り組みによって暑い日に外に出ることを躊躇する機会が減り、健康増進や、地域活性化につながると考えられる。

反省点

地域の皆さまへのヒアリングや行動調査などを行っていないため、実際にこの地域に住んでいる方々が暑さについてどのように感じているのかを今後把握する必要がある。また、提案による効果を定量的に評価することができないため、本提案により人々の行動がどの程度変化するのが今後の検討課題である。

政策提案概要書

現状・背景

近年、都市部では気温が急激に上昇している傾向がみられる。これは地球温暖化に加え、ヒートアイランド現象が関係していると言われている。ヒートアイランド現象の主な原因として、都市形態の高密度化、人工排熱の増加、地表面被覆の人工化などが挙げられており、これらによって都市部では熱中症リスクが高くなっている。

実際に、さいたま市における 2022 年 6 月から 8 月までの 14 時台の WBGT を調査したところ、厳重警戒・危険域に達する日が多く、またさいたま市の大宮駅から大宮門街、氷川参道周辺を対象地域として行った現地調査では、日向の街路表面温度を計測した際、約 60℃であった。

これらの現状・背景より、暑さをしのぎながらまちの回遊性を高め、夏季においても安心・安全に歩いて暮らせるまちづくりを目指すことが重要だと考えた。

政策概要

本提案では東日本の顔として再開発が進む大宮駅東口周辺を対象として、日陰空間の避暑効果に着目した「クールルート」「クールスポット」の提案を行う。

「クールルート」とは、日陰のある場所を優先的に選択したときの経路のことである。時間帯によって日陰空間の出来る位置が異なるため、クールルートも時間によって変化する。

また、日陰が足りない部分には暑さをしのげる空間として、「クールスポット」を設置する。クールスポットでは、緑陰に応じて座る位置を変えられるベンチや熱中症リスクをモニタリングし共有するデジタルサイネージ、またミストやファンを設置することで、暑い環境下でも涼しさを感じることができるような空間を創出する。

さらに、これら「クールルート」「クールスポット」を簡単に可視化でき、活用しやすくするために、マップアプリ「クールマップさいたま」を開発する。

効果・展望

日陰空間を活用した「クールルート」を利用することで、夏場でも時間に応じた暑さをしのげるルートを通ることができ、また、新たな日陰空間「クールスポット」の設置により、街中の熱中症リスクの低い交流拠点が生まれる。

これらを「クールマップさいたま」で表示させることで人々が活用しやすくなり、高温化する夏季においても安全に、安心して歩けるウォーカブルなまちづくりの実現が可能となる。

グループ紹介

大学名	芝浦工業大学
グループ名	芝浦 HADO チーム
発表テーマ	AR スポーツで高齢者の新しいスポーツ文化を創ろう！
指導教員	石崎聡之、真鍋宏幸、井尻敬、浜野学、深野真子
参加学生数	7名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

・アピールポイント

さいたま市には「さいたま市民シルバーe スポーツ協会」が立ち上がっているが、コンピューターゲーム、ビデオゲームへの取り組みが中心と考えている。

一方で我々のグループでは、より体を動かすことに特化したARスポーツである“HADO”を題材として高齢者に取り組んで頂いており、その効果について検討を加えているところである。本取り組みはおそらく“日本初”と考えられ、新たなスポーツ振興に向けて追い風となる活動であると考えている。

現在、週2回×2ヶ月（計16回）のトレーニング実験を実施中である。現在、怪我人を出すこともなく、楽しく、明るく、回を経る毎に盛り上がりを見せている。また、適宜、大学生にも参加して貰っており、参加者間のみならず、異世代間の交流も行われている。

・反省点

HADOを行った当初はルールが分かりにくいという意見を多く頂いた。導入の部分でわかりやすい説明を促す必要があると感じている。

・所感

高齢者の参加者は「これはスポーツか？」という疑問が当初あったが、回を経る毎に戦略を考える場面が増え、競技性に関心を持ち、参加意欲が高まっていることを感じている。HADO（ARスポーツ）を通して、コロナ禍で失っていた参加者間の交流を増やし（異世代含む）、地域の活性化を目指せると手応えを感じている。

政策提案概要書

1. 背景

我々のグループは2014年よりさいたま市スポーツ振興課の協力を得て、高齢者の健康維持増進事業を推進し、大きな成果を上げてきた。さらに、2020年度からはコロナを考慮してZoomを用いた遠隔型運動教室を開催し、体力向上に十分な効果があることを示した。特に、2021年の結果では、適度な負荷の運動と参加者間の和気藹々とした会話を含む交流が運動継続の大きな要因とあることを明らかにした。したがって、高齢者の活動を継続的に行うには安全性を保ちながら、「楽しさ」、「十分な交流」が含まれる内容であることが望ましい。

今回の取り組みでは、近年ARスポーツの代表格として知られるHADOを行い、高齢者のARスポーツ実施が心と体にポジティブな効果をもたらすかを検証していく。本課題に取り組むことで、さいたま市の新しいスポーツ振興・産業の発展に結びつけ、スポーツ文化の醸成に寄与していくと考えている。

2. 政策概要

①知の拠点となる大学を生かしたARスポーツの実践によって高齢者の健康を推進する。

→ おそらく“日本初”と考えられるARスポーツ（HADO）の定期的な実践により、高齢者の心と体の健康を増進すると考えている。さいたま市には既に「さいたま市民シルバーeスポーツ協会」が立ち上がっているが、全身を動かす運動というよりは、主にコンピューターゲームへの取り組みにより認知機能の改善などを狙えると考えている。我々の取り組むHADOは全身を使ったスポーツであり、この効果を立証することでさいたま市のeスポーツ文化の発展に貢献できると考えている。

②ARスポーツ参加者同士（高齢者） + 異世代（主に学生）との交流によりコミュニティ形成を促進する。

→ HADOは非接触型のスポーツであり、体力差・運動歴・性別を無視して行えるスポーツである。つまり、世代を超えた対戦が可能であり、高齢者同士の対戦のみならず、学生との対戦などを通じて異世代間交流が実現でき、コミュニティ形成にも寄与できると考えている。

3. 効果

ARスポーツ（今回はHADO）に触れることで、最新技術への関心・興味を持つことに繋がり、高齢者の参加および運動意欲を引き起こすことが可能となる。対戦型のスポーツであるため、相手の攻撃から逃げる動作をすることで、動体視力・認知機能等の改善に繋がる。また連続的に動くことで持久力の改善を含む体力の改善に繋げることが出来る。

また、ARスポーツを通して、コロナ禍で失っていた参加者間の交流を増やすことができる。特に実施場所を大学等にすることで、学生との対戦・交流を推進でき、異世代間交流のあるスポーツ文化を創っていくことが可能となる。

グループ紹介

大学名	国際学院埼玉短期大学
グループ名	鈴木ゼミ
発表テーマ	健康寿命延伸のために、美味しく食べよう ～フレイル・サルコペニア予防のために今から取り組むべきこと～
指導教員	鈴木 玉枝、澤田 璃沙
参加学生数	3名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

超高齢化社会を迎え、高齢者の健康寿命を延伸するためには、サルコペニア・フレイルの予防や改善が重要な課題であると考えます。その対策として、栄養状態の維持・改善に取り組むことで、要介護リスクの低下につながるとの報告もあります。

そこで、高齢者の方々や自宅で介護されている方々が抱えている食生活上の問題点に着目し、政策提案を検討いたしました。

「いつでも、どこでも、気軽につながる」「地域住民の方々との関わりや、世代を超えた交流の機会を増やす」「さまざまな情報発信」「高齢者の方々だけではなく、介護されている幅広い世代の方々にも」をキーワードに、可能な事業展開を考えました。

また、すでに現在開催されている介護予防事業と連携をとりながら、多くの場面で、高齢者の方々にとっての食事の大切さやそのポイントについて啓発していく必要があると考えます。

政策として実現させるためには、いきいき長寿推進課、社会福祉協議会、市デジタル改革推進部、地域のボランティアグループなど、他部署にわたり横断的な連携が必要だと考えます。

実現に向けては実施困難な内容もあると想定されるため、まずは、対象モデルとして、地区、デジタル活用技術の高い方、健康意識の高い方などを中心として試験運用し、拡大展開を図っていくことで実現可能な政策提案であると思います。

政策提案概要書

【政策提案骨子】

高齢者の方々が、美味しく、楽しく食事をして、健康寿命の延伸を目的として、食生活、食習慣の改善につながるよう提案します。提案内容は、調理動画のオンデマンド配信、料理教室の対面開催およびリアルタイム配信です。

調理動画は、家族の方々と同じメニューで食事ができるよう、嚥下困難な方や栄養状態が低下している方、食欲が低下している方などへの食事展開を含めて作成し、オンデマンド配信を行います。

料理教室は、対面開催の機会を増やします。交通手段や運動機能などの問題があり、直接会場に来られない方もおられるため、対面開催を行っている会場からオンライン(zoom など)でリアルタイム配信の教室を開催します。会場で開催することにより、地域での世代を超えた交流の機会の増加、地域住民の方々との関わりを持ち、学ぶことの楽しさを知っていただくことが可能となります。また、料理、食事をする楽しみにつながります。

いずれの提案も、皆さんへの啓発活動が重要なため、その対策として、地域のサポートセンター、公民館、健康診断会場、各病院やクリニック、診療所などの医療施設、スーパーマーケットなどにチラシの配布を含めた宣伝を行い、さまざまな年代の方々に周知徹底を図ります。また、SNS 等を通じて情報を発信し、幅広く取り組みを知ってもらうようにします。

また、横断的な連携として、現在開催されている介護予防事業(すこやか運動教室、健口教室、ますます元気教室など)、地域の方々とコラボレーションできるよう、他部署、地域への働きかけも必要だと考えます。

【提案効果】

料理を実際に体験することで作る楽しさを知っていただくだけでなく、食事の重要性、食べる楽しさを知り、さまざまなことに興味を持つことで、認知症予防につながります。また、栄養バランスのよい食事について学ぶことで、必要な栄養量を確保するだけでなく、栄養状態を維持・改善することが可能となります。

また、交流機会の増加は、健康増進、地域でのコミュニティ形成、さらにはいきいきとした地域づくりの手助けとなります。さらには、高齢者の孤食を防止することで栄養状態が改善し、認知症予防、フレイル・サルコペニアの予防・対策が可能となります。

グループ紹介

大学名	埼玉県立大学
グループ名	川俣ゼミ
発表テーマ	教育現場（小学校）への作業療法士の参加
指導教員	川俣 実
参加学生数	4名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

- ・特別支援学級に在籍する児童数や全児童数に対する割合も増加している中、学校生活を送るうえで、個別での支援が必要としている児童も増加していると考え、さいたま市内の普通小学校に作業療法士も参加することを提案する。
- ・他県や市では、特別支援学校への作業療法士の参加はあるが、普通学校への作業療法士の参加は、先進的なことである。
- ・作業療法士が教育現場（小学校）に加わることで、児童に対して医療的観点から支援が可能である。

政策提案概要書

1. 作業療法士とは

- ・心身に障害を持つ方に対して、「こころ」と「からだ」のリハビリテーションを行う専門職。
- ・対象者のニーズに合わせて、その人らしい生活を送ることができるように支援する。
- ・作業療法士の活躍の場は多岐にわたり、身体障害領域・精神障害領域・発達障害領域・老年期障害領域の4つの領域や、勤務先（整形病院や精神病院、デイケア施設など）がある。
- ・今回の提案は発達期領域の作業療法に観点を当てる。発達期の作業療法は主に、子どもの日常生活活動、学習、運動、社会生活技能などの様々な能力の発達を促す。
- ・作業療法では、筋力の増強や姿勢の改善などを行う身体的アプローチと、椅子や机の調整などといった環境的アプローチを行う。

2. 背景

- ・平成23年度から令和4年度にかけて、さいたま市の特別支援学級に在籍する児童数や全児童数に対する割合も増加している。
- ・普通学級にも発達障害児が在籍している。
- ・入学後の環境に馴染めず、学校に行くことに拒否的になる「小1プロブレム」がある。
→特別支援学校・学級にかかわらず、支援を必要としている児童は一定数いると考える。

3. 提案《教育現場（小学校）に作業療法士も参加する》

- ・モデル校を設置して、作業療法士が参加したことによる変化を見る。

[実施内容]

(I) 作業療法

対象児が必要としていることに対して、身体的・環境的アプローチを行う。

(II) 潤いファイルの活用

現在、さいたま市内で活用されているが、保護者の方が記載しており、対象児の多面的な情報を残すことが難しい。そのため、作業療法士が評価計画やその経過、影響を記入し、保護者の方にお渡しすることで、家庭内での支援の参考にできる。

(III) 事例集の作成

相談内容・支援方法・その影響をまとめる。今後、似たような悩みを抱える児童に対して、教育を進める上での指針にできる。

4. 効果

- ・医療的視点が加わることで、教育現場における多様なニーズに応えられる。
- ・個々の特性にあった支援ができる。
- ・小1プロブレムに悩む人への支援（入学後の定着）
- ・教育環境の充実化→住み続けられる町づくりへ

グループ紹介

大学名	埼玉大学
グループ名	斎藤ゼミ
発表テーマ	さいたま市における熱中症患者減少をめざして
指導教員	斎藤 友之
参加学生数	12名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

本政策案の構想は今年の夏季の猛暑を受けたものであり、さいたま市の熱中症患者の現状をふと調べたことから始まりました。埼玉県は暑いという印象がありますが、データを収集・分析して現状を把握していくにつれ、さいたま市が現在あまり力を入れていない、熱中症患者の減少に向けた政策が必要なのではないかと考え、本政策案の提言に至りました。

SDGs とは、「3 すべての人に健康と福祉を」「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「11 住み続けられるまちづくりを」「13 気候変動に具体的な対策を」に関連性を持たせています。

政策提案概要書

1. 本政策案の背景

データの分析により、さいたま市内の熱中症の患者数は、関東の他地域よりも割合として多いことが判明し、そのうち半数が高齢者であった。また、さいたま市は関東の他地域よりも夏季の平均最高気温が1℃ほど高く、それは、①内陸に位置していること、②都市圏を通過して温まった風が吹き込むこと、③フェーン現象による地理的な要因と、①業務用建物及び幹線道路を使用する自動車による排熱、②平均1万人/年の人口増加、③ヒートアイランド現象による都市構造要因が複雑に構造化しているためと推測できる。よって、さいたま市には、ターゲットを高齢者に絞った熱中症患者の減少を目的とした政策が必要であると考えた。

2. 政策概要・効果

提案する政策案は大きく2つある。

1つ目は「屋内外からの暑熱順化アプローチ」である。この政策は、暑熱順化（体が暑さに慣れること）に着目したもので、年間を通してウォーキングと入浴の2つを行うことにより暑熱順化の基盤をつくりながら、5～6月前半を強化期間として活動の強化を行い、効果的に暑さに強いからだづくりを目指すものである。暑熱順化の達成及び継続のために3つのプロセスを踏む。第一段階「意識改革」では、必須外出時にウォーキングの有効性を伝える広報を行い、さらに歩数計算アプリ「さいたま市健康マイレージ」の機能追加と改修を行う。第二段階「慣習化」では、チラシを用いてウォーキング習慣の定着と入浴の促進、暑熱順化に関する知識の周知を行う。第三段階「集中強化」では、活動の強化期間を設けて、暑熱順化の達成を図る。これらのアプローチにより、暑熱順化したからだづくりの達成と継続を促し、熱中症患者の減少を目指す。この政策の効果として、健康的な生活週間の定着が見込まれる。

2つ目は「高齢者エアコン補助金制度」である。この政策は、高齢者の熱中症発症のほとんどが屋内で起こるものであることや、高齢者はエアコンの使用にあまり積極的でないという傾向に着眼し、高齢者の適切なエアコンの使用と補助を目的とした政策案である。65歳以上の方が居住している一部の世帯に対して、夏季(6～9月)のエアコン使用料の一部を補助するという趣旨のもので、申請の対象世帯はさいたま市後期高齢者医療制度の所得区分「低所得者1」「低所得者2」である。また、補助金の金額は、WBGT（暑さ指数）が「危険」を観測した日数に応じて算出する。この政策の効果として、救急車出動回数の減少、医療費削減、緊急搬送の病床数確保が考えられる。

グループ紹介

大学名	日本大学
グループ名	福島ゼミナール
発表テーマ	さいたま市×ブックマーク ～さいたまマーク～ しおりでつくる・つながる・まちへの愛着
指導教員	福島 康仁
参加学生数	15名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

本提案におけるしおりは、本などに挟み目印を残す単なるしおりではない。
手にした人、誰もがさいたま市の魅力を知ることができ、自然と愛着を育み・高め・広められるしおりである。

なぜ「しおり」なのか、またすべての人が手にする機会やしおりへの興味から愛着醸成に至るまでの導線をどう確保するか、といったテーマ達成に欠かせないしかけを10分間という発表時間および手のひらサイズのしおりの中に収めた。

政策提案概要書

現状・課題

さいたま市民意識調査によると、住みやすい・住み続けたいと感じている人が8割以上である。しかし、定住意向データでは、希望する転居先を確認するとさいたま市内より、市外に転居したいと考える人の割合が高い。そこでテーマの達成には、市に対する愛着醸成という観点から、市外への転居希望者にさいたま市の魅力に気づいてもらい、住み続けたいと思わせることが重要だと考えた。

提言（しおりに着目した）理由

さいたま市が持つ強みを生かした新しいもの、すなわち、(1)図書館の環境が充実していること、(2)若い世代の本との関わり方が身近であることを活かした愛着醸成政策を提言する。

“しおり”に着目した理由として、

しおりの性質上、本・参考書・手帳等に挟むかぎり何度も目に付く。そのため、手のひらの中で自然と市に対する愛着を高め、手軽に愛着を共有・アウトプットできるポテンシャルを有している。さらに、通常のしおりにはない機能をしおりに持たせることにより、さいたま市で写真投稿やスタンプラリーなどさまざまな体験を行ってもらうことで、さいたま市についてより詳しくなり、改めて市の魅力を再認識し、愛着が高まると考えた。

政策概要

私たちが提案するのは【さいたマーク】というしおりである。さいたマークとは、さいたま市のマーク（特徴）とブックマークを掛け合わせた造語であり、さいたま市の「魅力を知る」「愛着を育み・高め・広める」そんなきっかけを生み出す秘密道具。さいたマークには、愛着を醸成するための仕掛けが詰め込まれている。

政策効果

市民はさいたま市の魅力を再・新発見し、愛着をより高め、市内への定住意向が高まる。

さいたま市は市民が愛着を醸成することにより、人口の市外への流出を抑え将来にわたり、持続可能な都市の発展に寄与する。

市内事業者は、さいたマークへの協賛を通じて、市民に親しまれる事業者として広く認知され、地域の活性化を期待できる。

グループ紹介

大学名	人間総合科学大学
グループ名	チーム uhas
発表テーマ	居酒屋×食育 ～ “お通し” から見直そう～
指導教員	梅國 智子
参加学生数	13名

検討・提案について（アピールポイント、反省点、所感など）

2005年に食育基本法が制定され、個人だけでなく、国民全体で生活のQOLを高め、徹底した生活習慣病予防の観点から医療費の増大防止を図ることとなっています。また、SDGsにおいて、「3すべての人に健康と福祉を」は国際目標の1つとなっています。

しかし、近年の飽食、グルメ時代を経て食生活が豊かになったことより、過剰栄養と運動不足による肥満や、アンバランスな栄養摂取による疾病の増加が問題となっています。特に、働き盛りの成人男性は、食育について学ぶ機会が少なく、実生活に栄養改善を組み入れることが困難な状況となっています。

そこで、成人男性が気軽に利用する居酒屋に着目しました。これらの居酒屋では、お酒を注文すると必ず“お通し”が提供されます。これらの“お通し”を健康面に配慮したメニューとすることで、成人の男性の方々も無理なく栄養や健康に関する知識を習得し、生活に取り込みやすくなると考えました。

政策提案概要書

1. 現状とテーマ設定の動機

さいたま市の調査において、「生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている男性」の割合が平成 28 年から令和 3 年にかけて増加しています。さらに、50 歳代の男性では脂質異常症・メタボリックシンドロームと指摘された人の割合が 40 歳代～60 歳代の中で最も高く、肥満者の割合は平成 24 年から令和 3 年にかけて増加し続けています。

また、さいたま市の食育に関心を持っている人の割合（16 歳以上）も令和 3 年までに徐々に低下しており、全国の目標値に達していない状況です。

このような現状から、アルコール摂取状況と生活習慣病の罹患率の高さに注目し、アルコールを多く提供し利用者の多い居酒屋と食育を結び付けることを考えました。

居酒屋ではどのお店でも突き出しとして“お通し”が提供されています。そのため、食育の媒体としての有用性と可能性を感じ、“お通し”を活用した食育の推進と健康に関する知識の普及を目指しました。

2. 政策概要

政策内容は、「居酒屋を対象とした“お通し”コンテストを開催すること」および「居酒屋において健康に配慮した“お通し”を提供し、その料理の効果や食材の効果を説明すること」としました。

- ①居酒屋を対象とした“お通し”コンテストを開催する。コンテスト用 HP や SNS アカウントを作成、電話や広告（ポスター等）掲示により参加を募る。参加店には店舗の説明・健康に配慮した“お通し”の詳細・アピールポイントを記載した用紙を提出していただく。参加店にもチラシの配布等協力していただき、記載された QR コードからお客様が専用サイトにアクセスし投票を行い、優秀賞を決める。
- ②協力してくださる居酒屋において健康に配慮した“お通し”あるいは“お通し”コンテストで優秀賞となった“お通し”を提供し、その料理の効果や食材の効果を店内に掲載してもらう。また、“お通し”を配膳する際に、お客様自身も注文していない料理について何が入っているのか確認すると考え、お客様の興味を示したときに説明を行う。

3. 期待される効果

- ①今回の政策提案により、日常生活の中で飲酒をしている人達に、食生活健康に関する知識を普及し関心を持たせます。
- ②居酒屋を利用した人から利用していない人への普及も可能となると考えています。

4. 引用文献

令和 3 年さいたま市健康づくり及び食育についての調査

(https://www.city.saitama.jp/002/001/014/002/p088144_d/fil/9-2kensin.pdf)

さいたま市 HP より

(<https://www.city.saitama.jp/002/001/014/002/p088144.html>)

歴代受賞グループ一覧

第1回 平成23年11月20日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市を魅力あるまちにするための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	ツール・ド・さいたま ～日本最大級のサイクルイベントへの開催～
優秀賞	花盛り（はなざかり）	聖学院大学	さいたま市空き地・休耕地活用事業
	埼玉県立大学 作業療法グループ	埼玉県立大学	義務教育におけるノーマライゼーションをめざして
	外山ゼミナールチーム ～100年の絆～	日本大学	さいたま市これからの100年 ～官学協働計画～

第2回 平成24年11月18日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市のブランド力の向上のための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	さいたま発の盆栽ブランドの開発
優秀賞	S P U ☆ O T 9	埼玉県立大学	さいたま10の区地域の輪 ～地域交流活性化を目指したシステム構築～
	外山ゼミナールA	日本大学	『鉄道のみち ルネッサンス計画』
	外山ゼミナールB	日本大学	さいたま11区を創ろう！しあわせタウン

第3回 平成25年11月24日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市を「選ばれる都市」にするための政策・事業

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	I C Tによる交通政策
優秀賞	内田ゼミ	共栄大学	人形の町さいたまの復活
	社会福祉学科3年	埼玉県立大学	都市交縁（こうえん）計画～公園から始まる地域のつながり～
	川俣ふおーらむ	埼玉県立大学	市民に愛される街～市民参加型の新しいフォーラムの形～

第4回 平成26年11月16日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ 市民一人ひとりがしあわせを実感でき、市民や企業から選ばれる都市にするために

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	振り込め詐欺対策
優秀賞	健康栄養 & 幼児保育学科 コラボチーム	国際学院埼玉短期大学	『さいたま市ヘルスプラン 21 目標達成に向けて』～“ヌウ”ってメタボじゃない！？このままで大丈夫！？～
	Let's OT!	埼玉県立大学	コミュニティ強化のための「心の視覚化政策」
	内田ゼミ	共栄大学	低糖質でメタボ中年からスイーツ紳士へ～健康都市 さいたま～

第5回 平成27年11月8日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ さいたま市のおもてなしスタイル

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	齋藤ゼミナール	埼玉大学	うちわによるオリンピックの暑さ対策
優秀賞	Shall We OT?	埼玉県立大学	Boys, be ambitious 計画～高校生ボランティアと医療アプリの普及について～
	福島ゼミナールA	日本大学	文化芸術によるおもてなし
	福島ゼミナールB	日本大学	まちの美化によるおもてなし

第6回 平成28年11月20日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 東日本の交流拠点都市

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	OT' S	埼玉県立大学	ウォーキング×イベント～東日本まるごと健康プラン～
優秀賞	福島ゼミナールA	日本大学	かるたを使って発信～東日本の魅力が見つかるた
	福島ゼミナールB	日本大学	～備えあれば憂いなし～シェルたまプロジェクト
	齋藤ゼミナール	埼玉大学	Relations of Victory～VR を活用した広域連携による観光促進事業～

第7回 平成29年11月19日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 若い世代の定住促進

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	齋藤ゼミナール	埼玉大学	3 S System Saitama Scholarships return Support～定住のための若者支援制度～
優秀賞	UHAS.com	人間総合科学大学	埼玉食健美 健康ダイエット in さいたま
	福島ゼミナールB	日本大学	SAITAMArriage さいたまマリッジ
	OT' ASH	埼玉県立大学	自分らしく生きられるさいたま市～あいたまアプリでさいたま？からさいたま！へ～

第8回 平成30年11月18日（シーノ大宮センタープラザ 10階多目的ホール）

提案テーマ 健康で活力ある「スポーツのまちさいたま」

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	チーム青志	人間総合科学大学	彩★スポ ジュニア栄養サポート制度
優秀賞	齋藤ゼミ	埼玉大学	Reward×Walk ～歩いて手にする商品と健康～
	健康増進授業	芝浦工業大学	大学を拠点とした健康増進授業の取り組み ～健康で、笑顔のあふれるまちづくりのために大学ができること・・・～
	押久保ゼミ	埼玉県立大学	スキマ時間でスポーツを身近に ～ふっくらたまちゃんスリム化作戦～

第9回 令和元年11月14日（武蔵浦和コミュニティセンター 9階多目的ホール）

提案テーマ 東京2020大会に向けたおもてなし

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	さいたまオアシスプロジェクト	芝浦工業大学	東京オリンピック・パラリンピック開催時の雪の利活用促進について
優秀賞	齋藤ゼミナール	埼玉大学	まんがを用いた情報発信
	福島ゼミナールAチーム	日本大学	シュート風呂敷 in さいたま
	福島ゼミナールBチーム	日本大学	フォトたまりー

第10回 令和3年11月7日（オンライン開催）

提案テーマ 「SDGs」先進都市

賞	グループ名	大学名	発表テーマ
最優秀賞	久保田ゼミ	埼玉県立大学	さいたまに気づこう！広めよう！ 家でも外でも健康アプリ
優秀賞	TeamA	埼玉大学	NEXT SDGs—SDGs 未来都市さいたま市への提言
	最適システムデザイン 研究室	芝浦工業大学	MaaSを想定したコネクティッドバスシステム
	斎藤ゼミナール	埼玉大学	雨天決行！歩いて健康プロジェクト

「大学コンソーシアムさいたま」とさいたま市との連携について

1 大学コンソーシアムとさいたま市との包括協定の締結

(1) 概要

平成23年10月26日、さいたま市内及び近隣の大学により、「大学コンソーシアムさいたま」が設立されました。

また、同日開催された市と大学との座談会で、市と「大学コンソーシアムさいたま」が、幅広い分野において密接な協力と連携を図り、双方の発展や地域社会の発展に寄与することを目的として、包括協定を締結しました。

(2) 大学コンソーシアムさいたまの概要

① 目的

大学相互の自主性を尊重しつつ、大学が有する知的資源を活用した活動を行うとともに、大学相互の連携及び交流と活力ある地域社会の形成及び発展に寄与することを目的とします。

② 連携内容

教育及び研究分野における連携に関すること、会員と地域社会の民産学官との連携及び交流の促進に関することなどを行います。

③ 加盟大学

埼玉大学、埼玉県立大学、浦和大学、慶應義塾大学薬学部、芝浦工業大学、聖学院大学、日本赤十字看護大学さいたま看護学部、日本大学法学部、日本薬科大学、人間総合科学大学、放送大学埼玉学習センター、目白大学、国際学院埼玉短期大学

2 「大学コンソーシアムさいたま」と市との包括協定に基づく連携内容

福祉・教育・経済等の幅広い分野において、互いが有する人材、施設、情報等の活用について連携しています。

【主な連携事業】

- ・大学による地域の課題解決・活性化支援事業等
- ・さいたまスポーツシューレへの協力
- ・さいたま国際芸術祭への協力
- ・Saitama Sunday Soup（日曜日は食べつくスープ！）への協力

**第11回学生政策提案フォーラム in さいたま
開催プログラム**

事務局

さいたま市 都市戦略本部 行財政改革推進部

TEL 048-829-1106 FAX 048-829-1997

MAIL kaikaku@city.saitama.lg.jp